

2012年6月29日

愛媛県知事 中村時広 様

松山市三番町 5-2-3 ハビル 3F TEL089-948-9990

伊方原発をとめる会

【共同代表】

安西賢誠（真宗大谷派専念寺住職）
大原英記（平和運動センター事務局長）
草薙順一（弁護士）
河野文朗（愛媛医療生協理事長）
白戸暉男（元コープ自然派えひめ理事長）
須藤昭男（インマヌエル松山キリスト教会牧師・福島県出身）
清野良榮（松山大学教授・福島県出身）
立川百恵（コープえひめ前理事長）
中尾 寛（愛媛労連特別執行委員）
益田紀志雄（医師）
真鍋知巳（医師）
村田 武（愛媛大学社会連携推進機構教授）
和田 宰（伊方等の原発をなくす愛媛県民連絡会議代表幹事）
渡部寛志（福島県南相馬市から避難した農業従事者）

**6月知事定例記者会見の知事発言における事実誤認について、
訂正と謝罪を求める申入書**

愛媛県のホームページには、知事の定例記者会見の要旨が掲載されています。6月18日の定例記者会見の中で中村知事が、6月10日の私たちの「伊方原発再稼働阻止！愛媛県庁包囲行動」と、翌11日の知事への申し入れについて下記のように語っています。

「これは、全国的な政治活動家の皆さんが呼び掛けた行動だと思います。市民グループというのは、政治活動家主導の政治行動ということだと、それを悪いとか言っているんじゃないんですよ、そういう質だと思うんですね。ですから、大飯というものがああいう形になった。マスコミでの報道を見ると伊方が次じゃないかということを受けての非常に高度な判断による行動かなというふうには思います。県外からバスが十数台チャーターされて、7割ぐらいが県外の方だったと聞いていますけれども、そういう活動なんだろうなと思っています。前も申し上げたんですが、僕は別にそういう特定の政治活動団体に対しての面談というのは、松山市長時代から行ったことはありません。そういう利用されたくありませんから、PR活動で。ですから、それは担当者ということです。ましてや、あの日は、突如、月曜日に来て、僕はその日は上島町へ行っている。上島町の町民の皆さんと懇

談会を前々から約束している。どっちが優先かといったら上島町の懇談会、大勢の方が集まっているわけですから。粛々と公務をこなしているわけで、また、それが出てこないというのを声高にPRされるというやり方もどうなのかなと思いますけどね。」

これらの知事発言のうち、以下の(1)～(3)について明確に事実と反します。私たち「伊方原発をとめる会」は、中村知事に対し、訂正と謝罪を要求します。

(1) 6月10日、11日の集会、申し入れ行動については、松山市内に事務所を置く「伊方原発をとめる会」が主催をし、呼びかけをしたものです。どういう根拠があって「全国的な政治活動家の皆さんが呼びかけた」と知事は発言したのでしょうか。

(2) 6月10日に集まった1300人について、知事は「7割ぐらいが県外の方だったと聞いています」と語っています。私たちは、県外が約700名、県内が約600名と集計していますが、知事は誰から、県内が3割などと聴かれたのでしょうか。

さらには、「県外の方」といっても、高知県、大分県、山口県の人たちには、伊方原発は地元と言うべき近距離の住民です。瀬戸内海に面している各県の人たちにとっても同様です。

(3) 私たちは6月11日の申し入れを「突如」行なったわけではありません。半月以上前から、愛媛県の秘書課に対し3回の申し入れ・問い合わせを行っていました。

5月25日、代表3名が知事秘書課に行き、口頭並びに書面で、6月11日には50名程度の会場と2時間を確保いただけるよう申し入れています。(添付1)

5月31日に当会の和田事務局次長が電話で、秘書課に問い合わせをしています。秘書課は、原子力安全対策課が担当であり、そちらから返事がある旨を語りました。

6月6日になって、ようやく山口原子力安全対策推進監から電話で返事があり、その内容は、10名程度、1時間以内というものでした。和田事務局次長は、そのやりとりの中で直ちに、知事・副知事などと再度相談し、再検討するよう求めました。

6月8日、「伊方原発をとめる会」の8名が秘書課に行き、県側2名の担当者と面談して、あらためて50名程度の会場確保と2時間の対応を求める書面を手渡しました。(添付2)

こうした幾度にもわたる事前の申し入れが、秘書課から知事に全く伝わっていないのでしょうか。それとも知事の失言でしょうか。

以上について、中村知事の回答を求めます。事実誤認にもとづく発言であることを認め、訂正と謝罪をしてくださるよう求めます。

また、今後は、主権者である住民の面談、申し入れについて、誠実な丁寧な態度で対応し、住民の声に真摯に耳を傾けることを中村知事に切に求めます。

以上

2012年5月25日

愛媛県知事 中村時広 様

790-0003 松山市三番町5-2-3ハヤシビル3F TEL089-948-9990

伊方原発をとめる会

共同代表】

安西賢誠（真宗大谷派専念寺住職）

大原英記（平和運動センター事務局長）

草薙順一（弁護士）

河野文朗（愛媛医療生協理事長）

白戸暉男（元コープ自然派えひめ理事長）

須藤昭男（インマヌエル松山キリスト教会牧師・福島県出身）

清野良榮（松山大学教授・福島県出身）

立川百恵（コープえひめ前理事長）

中尾 寛（愛媛労連特別執行委員）

益田紀志雄（医師）

真鍋知巳（医師）

村田 武（愛媛大学社会連携推進機構教授）

和田 宰（伊方等の原発をなくす愛媛県民連絡会議代表幹事）

渡部寛志（福島県南相馬市から避難した農業従事者）

伊方原発を稼働させないよう求める決議並びに 各地からの申し入れ書をもって知事宛申し入れを行います

下記の要領で、6月10日開催の「伊方原発稼働阻止！！愛媛県庁包囲行動」スタート集会における決議並びに、四国各県及び国内各地域住民からの申し入れ書をもって知事宛申し入れを行います。

東京電力福島第一原発の事故が示している状況は、原発の過酷事故が起これば、果てしなく汚染が広がり広範な地域住民が住まいを失い、生命と健康が脅かされ続けるということです。

四国電力との間に「安全協定」をもつ愛媛県知事におかれては、誠実に住民の声を聴き対処されることを求めます。

記

【日 時】 2012年6月11日（月） 午前10時～12時

【会 場】 代表50名程度が申し入れできる会場をご用意ください

以上

2012年6月8日

愛媛県知事 中村時広 様

790-0003 松山市三番町 5-2-3 ハヤシビル 3F TEL089-948-9990

伊方原発をとめる会

【共同代表】

安西賢誠（真宗大谷派専念寺住職）	立川百恵（コープえひめ前理事長）
大原英記（平和運動センター事務局長）	中尾 寛（愛媛労連特別執行委員）
草薙順一（弁護士）	益田紀志雄（医師）
河野文朗（愛媛医療生協理事長）	真鍋知巳（医師）
白戸暉男（元コープ自然派えひめ理事長）	村田 武（愛媛大学社会連携推進機構教授）
須藤昭男（インマヌエル松山キリスト教会牧師・福島県出身）	和田 宰（伊方等の原発をなくす愛媛県民連絡会議代表幹事）
清野良榮（松山大学教授・福島県出身）	渡部寛志（福島県南相馬市から避難した農業従事者）

伊方原発を稼働させないよう求める決議と 各地住民の声を伝える知事宛申し入れに 愛媛県として誠実な対応を求めます

私たちは5月25日に、秘書課を通じて知事宛に標記申し入れのための日程と場所の確保をお願いしていました。四国各県及び国内各地の住民からの申し入れ書等を携えて代表が伺うため、時間を「2時間」とっていただき、「50名程度」の会場をご用意いただけるようお伝えしていました。

5月31日に当方から秘書課に問い合わせたところ、担当課で返事する旨の対応でした。その後連絡がなく、6月6日の午後になって原子力安全対策課から返事の電話がありました。その要点は、「1時間未満に。会場は10名程度の場所しかない。対応は知事や副知事でなく、原子力安全対策推進監だ」というものでした。とても納得できるものではなく再検討を求めました。

そもそも、中村知事は伊方原発に関して、現時点で四電との「安全協定」をもつ唯一の知事です。原発が過酷事故を起こせば、その被害は広範な地域に及びます。それらの地域の住民が、「安全協定」をもつ中村知事に直接に訴えたいと願うのはしごく当然のことです。

それゆえ私たちは2週間以上前に書面で、日程と50名程度という人数をお知らせして対応を求めたのです。この問題は、広範な地域住民の命と暮らしに直結し関心の強い問題であり、知事が直接に対応すべきところです。100歩譲って、二人も設けた副知事さえも何も対応しないとは、何ということでしょうか。

知事におかれては、住民の声に耳を傾ける愛媛県の姿勢を示されるよう求めます。このままでは、原発被害の及びうる地域の住民に対し、あまりにも冷たい県政と見られてしまうことは必定です。根本からの対応改善を求めます。

ついては、再度、以下の対応を求めます。

【日 時】 2012年6月11日（月） 午前10時～12時

【会 場】 代表50名程度が申し入れできる会場をご用意ください

以上